

令和元年度 第10回

# 子ども議会

夢をもって、

10年後の千葉市について

考えよう

「みんなが住み続けたい千葉市にするために」をテーマに、小学校5、6年生の子ども議会議員が5グループに分かれ提案や質問を行いました。

今回は、子ども議会10回大会を記念して、「夢をもって、10年後の千葉市について考えよう」をサブテーマに未来の千葉市について考えました。

学習会で学んだり、自分たちで調べたりしたことをもとに、ファシリテータ役の中学生の支援を受けながら、提案や質問を検討しました。

当日は、自分たちの提案や質問を様々な資料を活用し、発表の方法を工夫して伝えることができました。

## 1 開催の目的

- 本市の将来を担う子どもたちが、本市の現状と課題について話し合い、「市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせるまちづくり」に向けた具体的な提案や質問を行う中で、千葉市民としての意識を高める。
- 子どもの目線に立った提案や意見を市政に生かす。

2 開催日時 令和元年7月24日(水) 9:00~12:00

3 開催場所 千葉市議会本会議場

## 4 出席者

(1) 子ども議会議員39人(公募による市内の小学5、6年生)

ファシリテータ役市内中学生12人

(2) 市政担当者

熊谷市長、鈴木副市長、服部副市長、峯村こども未来局長、磯野教育長、神崎教育次長

(3) 市議会議員

岩井議長、段木副議長、石川教育未来委員長、中村教育未来副委員長



## 5 内 容

### (1) 学習会～開催に向けて～

5回の学習会を実施し、市長や市政を担当する職員から本市の現状や取組、課題についての話を聞くとともに、自分たちで実施したアンケート調査や現地調査などの結果をもとに、提案や質問内容をまとめました。



<熊谷市長の講話後に質問をする子ども議会議員>



<テーマや今後の調整等を協議>



<行政担当者からの情報収集>



<提案や質問内容について協議>



(2) 子ども議会当日  
子ども議会議員はグループごとに、自分たちの思いが伝わるように工夫しながら、提案や質問を行いました。



＜中学生のファシリテータがグループの提案を支援＞



＜各グループの提案を興味深く聞く答弁者の皆さん＞



＜子ども議会の運営をする中学生のファシリテータ＞



＜市長に直接意見を聞く子ども議会議員＞

### (3) 提案・質問の内容

#### ① 「10年後、こんな学校になったらいいな。」グループ

- ◇より臨場感のある授業を可能にするため、各学校でVR動画を活用することを提案します。
- ◇学校をバリアフリー化にしたいです。各学校に段差のないスロープや多目的トイレの設置などを進めていくことを提案します。



- VR動画を活用することで、自分がその空間にいるような感覚になり、自主的に活動に参加し、主体的な学びをもたらすメリットも生まれるかもしれません。VR動画の導入により今までにない学びが生まれることが考えられ、とても夢のある提案です。導入に向け、課題はありますが、今後の参考にしたいと考えます。
- 新しい学校を作る時や、建て替えを行う時には、バリアフリーを意識した設計をしています。また、既存の校舎でも改修を進めていますが、建物の構造などから、難しい場合には、少しでも多くの人を使いやすいように簡易的な改修を行っています。さらに、特別な配慮が必要な児童生徒が在籍している場合には、可能な限りその児童生徒の状況に合わせた改修などを取り組んでいます。東京オリンピック・パラリンピックを契機に、共生社会に向けて、誰もが安心して学校生活を送ることができるように努力します。

## ② 「10年後、こんなまちになったらいいな（都市）。」グループ

- ◇廃校になった学校を利用して、レストランや宿泊施設などがある複合施設を建設することを提案します。
- ◇交差点に、風雨をしのぎ、景色が見えるスケルトンの歩道橋をつくることを提案します。
- ◇車を感知したり、信号と連動したりして自動に柵が出てくることで人を守る歩道を、建設することを提案します。



- 廃校になった学校を利用してレストランや宿泊施設としている事例は、実際に全国ではあります。これから学校の統廃合をしていくにあたり、その地域にとって一番良い使い方は何か考えていく中で、市民や皆さんのような世代の人たちから、たくさんアイデアをいただきながら、皆さんの提案を実現するチャンスがないか考えていきたいと思えます。
- 歩道橋は、昭和40年代位から整備してきていますが、老朽化して、あまり使われていないものは撤去し、必要なところはリニューアルして、新しい歩道橋として整備していきます。私たちも街づくりの中で、歩く人が安全で楽しい空間をどのように作っていいのか、皆さんの提案も大いに参考にしたいと思っています。大人になっていくと、車を運転する側の発想になりがちなので、皆さんのように、歩くということから、街をもう一度考え直すという発想は大変大事だと思います。
- 横断歩道に駅のホームの自動ドアみたいに柵が出てきたら、未来的で発想としては非常に面白いと思います。10年後には、自動運転が出てきたり、横断歩道で人が歩いているのを車が察知して自動的に止まったりする時代になってくると思いますので、横断歩道に柵のような人を止める機能を付けるのがいいのか、それとも走っている車の全てに衝突防止機能を付けるのがいいのか議論していくことになると思います。

## ③ 「10年後、こんなまちになったらいいな（里山）。」グループ

- ◇里山の自然を整備して、保全・保護し、美しい自然を保つことを提案します。
- ◇海辺に面した里山をつくり、海辺のよさも森林のよさも合わせ持った夢のような里山をつくることを提案します。
- ◇里山の自然を利用したアスレチックや生態園をつくることを提案します。



- 森林の水源涵養機能、二酸化炭素の吸収・貯蔵などの生活環境保全機能、レクリエーションの場の提供、野生鳥獣の生息の場など、多面的な機能を保全していくため、専門知識をもった森林ボランティアの数を増やしたり、森林所有者への助成などに取り組みます。
- 海と里は、縄文時代から続く、千葉市を特徴づける重要なものです。2つを結びつける提案はワクワクし、魅力的なものです。海浜には大きな公園が続いているので、こうした公園を活用して、海辺のよさと森林のよさを合わせた里山づくりができないか検討します。
- 現在も、子どもたちの森公園にプレイパークや泉自然公園の中にもフォレストアドベンチャーがあり、市民の皆さんに利用していただいております。今後も多くの市民の方に里山のことを知ってもらうことが大切です。提案にあったアスレチックや生態園の設置なども含めて、今後、どのように利用していくのかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

#### ④ 「10年後、こんなまちになったらいいな（海辺）。」グループ

- ◇海水をきれいにするために、各家庭の排水の仕方を工夫することを市民に伝えたいです。また、海水の浄化装置の設置、海藻や二枚貝を人工的に増やすなど海水の浄化を行う取組を提案します。
- ◇現在、Eポートレースや千葉港からの夜景クルーズを行っています。このようなイベントをもっと宣伝してほしいです。また、海辺を活用した遊具を一定の期間設置を提案します。



- 各家庭で油を直接流さないなど、皆さんが海をきれいにするためにやれることはたくさんあります。千葉市でも普及啓発に努めているので、是非皆さんからもまわりの方々に伝えてほしいです。また、海藻や二枚貝がもつ水質浄化作用は広く知られていますので、生態系等への影響を慎重に確認し、今後の技術進展にも注目しながら、有効な取組を進めていきます。
- 現在、提案にあったイベント以外にも検見川ビーチフェスタなどのイベントも開催されています。また、稲毛海浜公園では白い砂浜などのリニューアルを進めています。これらの取組を、市政だより、市HP、SNSなどにより広く発信していきます。海辺に遊具の設置は、おもしろいアイデアです。民間事業者と一緒に共有するなどして、10年後の海辺が多くの方々で賑わうよう、積極的に取り組んでいきます。

#### ⑤ 「10年後の千葉市の自慢を考えよう。」グループ

- ◇リサイクルより2Rを推進します。不用品回収ボックス「2Rパーカーボックス」をつくることを提案します。
- ◇千葉都市モノレールに誰もが乗車したくなるよう、居心地のよい内装にしたり、車内アナウンスに著名人を起用したりすることを提案します。
- ◇動物公園のイベントを増やしたり、夜の開園やキャラクターのPR、グッズを工夫したりすることを提案します。加曽利貝塚では、施設の改修やレストランの整備、楽しく見て回る工夫を提案します。



- 皆さんが名づけた「2Rパーカーボックス」などの不用品回収ボックスの設置により、家庭で使われなくなったものをごみとして出さずに必要な人に使ってもらうことで、市民のリユースに対する意識が高まります。また、ごみを簡単に捨てることができる環境をつくるのではなく、ごみを出さない、ごみにしない意識を市民の皆さんに持ってもらえる環境づくりが重要となりますので、一緒に考えていきましょう。
- 平成24年に、アーバンフライヤーを導入し、シートの座り心地を高め快適な移動を提供したり、床面にガラス窓を設置したりして、空中散歩を楽しめるようにしました。また、これまでにアニメのラッピング車両やグッズ販売なども行ってきました。今後は、千葉市にゆかりのある著名人のアナウンスへの起用などを検討し、今まで以上に誰もが乗車したくなるモノレールとなるよう努めます。
- 動物の本来の生態を感じられる動物園を目指すことを考えています。夜の開園については、動物公園で飼育している動物の多くは、夜間動物舎で食事や睡眠をとる必要があります。工夫したり解決したりしなければならないことがあるので、今後、実現するにはどうしたらよいかを検討してみます。加曽利貝塚については、リピーターやファミリー層など新たなターゲットを増やすことが課題です。今後整備を進めていく中で、レストランや楽しく見て回る工夫を検討し、市内の児童・生徒の皆さんが自分の出身地の魅力として自慢できるような場所を目指します。

## 6 熊谷市長の講評

皆さんは、「子ども議会」で提案することになり、改めて千葉市の取組について調べようと思ったり、調べた中で気付いたりしたことがあったと思います。それにより、今までよりももっと千葉市のことに興味を持つ機会となったら私たちも嬉しいです。

今後、生活をしていく中で、自分たちの住むまちの課題や願いがあれば、それを解決、実現するために主体的に行動する人になってください。提案したことを大人に任せるのではなく、自分自身もそれを実現するために、何ができるだろうかを考え、身近な場でできることから行動してください。

私たちは、子どもの視点を大事にしていこうと思っています。子どもの立場や気持ちを理解した上でまちや学校をつくっていこうと考えます。今回は子どもたちですが、外国人や高齢者などいろいろな立場の人の意見を聞いて、それをまちづくりに反映をしていきたいと思っています。

これからは、自分たちが主体的に行動して、自分たちで未来をよくしていってください。そうすることで、この千葉市はさらにいいまちになっていくと思います。私たちも皆さんに負けないようなまちづくりや人づくりに取り組んでいきます。

今日まで、一生懸命に発表の準備をしてくれた子ども議会議員の皆さん、サポートしてくれた中学生、保護者、学校の教職員の皆さんに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 7 子ども議会議員の声から

※一部を抜粋しています

何かあった時に友達だけでなく、知らない人とも話し合えたら、いろいろな考え方や意見が多く出ると思います。千葉市をもっと良くするために自分で考え、行動していきたいと思っています。

市長さんたちに取り組んでほしいことを伝えられて良かったです。千葉市にあまり興味を持っていなかったけれど、いろいろなことを調べてみて、千葉市に興味を持ち、大好きになりました。

ファシリテータとして子ども議会に参加して、多くの刺激を受けました。小学生が積極的に意見交換する姿や、協力して資料を作成する様子を見ていると自分もやる気が出ました。

学級会等で、何かを決めるときにいつも多数決になってしまいます。次回からはできるだけ、みんなが納得するような形で決めたいです。

## 8 提案の実現！！



<提案の実現に向けた話し合い>

「10年後の千葉市の自慢を考えよう」の提案を受け、こども企画課のワークショップにて、子ども議会議員や、市内小中学生の参加者により、「千葉市の自慢」についてさらに、話し合いました。特に、動物公園と千葉市少年自然の家について、さらに多くの人に魅力を知ってもらうため、360度カメラを使ったVR動画を撮影しました。これから、ホームページに公開するなど、動画を様々な場面で活用する予定です。

編集・発行：千葉市教育委員会学校教育部教育指導課